

10年後はどうなっている？

未来を考えて行動しよう **SDGs**



近頃、「SDGs」という言葉を耳にしたり、マークを見たりしたことはありませんか？全世界で取り組むユニバーサルな「SDGs」は、わたしたちの日常生活や農業、協同組合の精神にも通じるものです。知らなかった人も、「今さら」ということはありません。10年後の2030年に全ての人が豊かな生活を送るため、わたしたちにできることを考えてみましょう。

“SDGs”とは

「Sustainable Development Goals」の略称で、「持続可能な開発目標」を意味します。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、持続可能でよりよい社会を2030年までに目指す国際目標で、あらゆる形態の貧困や不平等、気候変動などに対処しながら、地球上の誰も取り残されない世界を実現させることを誓っています。2020年からは、よりよい未来を築くために規模を拡大させ、取り組みを加速させる「行動の10年(Decade of Action)」とされています。

17の目標と身近な“SDGs”

SDGsは17のゴールと169のターゲットから構成されています。これらは途上国や先進国を問わず、全ての国が実施する普遍的なものであり、日本国内でも様々な取り組みが行われています。わたしたちの普段の行動に当てはまるものや、少し意識するだけで簡単に実施できるものなど、わたしたちにとって身近な内容が含まれています。



JAと“SDGs”

「誰一人取り残さない」の理念を掲げるSDGsは、相互扶助の精神のもと、持続可能な農業と豊かな地域社会の実現を目指すJAと親和性が高いものです。JA全中では2020年5月に「JAグループSDGs取組方針」を制定し、「食と農を基軸に地域に根ざした協同組合組織」であるJAならではの視点から、SDGsの目標の達成に向けた取り組みを促進しています。



©みんなのよい食プロジェクト

宣言

わたしたちJAグループは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に賛同し、その達成に向けて、事業・活動に取り組みます。

JAグループは「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、組合員の皆さんの声に応えながら、不断の自己改革への取り組みを通じて、持続可能な地域農業・地域社会づくりに取り組んできました。

今後はさらに、わたしたちの事業や活動が与える多面的な影響にも配慮しながら、地球的視野に立ち、地域社会を構成する一員として、組織・事業・経営の革新をはかり、社会的役割を誠実に果たします。

JAグループは、各々の置かれた環境を踏まえて、SDGsの達成に向けて、事業・活動に取り組んでいきます。

「JAグループSDGs取組方針」より
方針の詳細は、JAグループ公式ホームページにてご確認ください。 ■ <https://org.ja-group.jp/challenge/sdgs/>